



# 学園 大学史料館 ミュージアム レター

## Gakushuin University Museum of History Museum Letter No.26

発行日 ● 平成26年(2014)9月20日

もくじ

ごあいさつ	1
桜圃名宝展から	2・3
「菊花紋吉野山蒔絵料紙硯箱」	
「寺内正毅宛 乃木希典書簡（大正元年9月12日付）」	
学園大学史料館からのお知らせ	4
◎「桜圃名宝」展	
◎第74回学園大学史料館講座	
◎ミニ図録「桜圃名宝展〔漆藝編〕」	
◎ミニ展示「伊藤清一確率解析の父」	



菊花紋散蒔絵文台硯箱

### ごあいさつ

9月に入り、夏休みを楽しんでいた学生が大学に戻って授業の準備を始め出すと、キャンパスは秋の様相を呈します。

さて、今秋の展覧会は、寺内正毅・寿一関係資料の中から厳選した資料を展示します。当館は昨年度、寺内家より、今号でご紹介する大正天皇からの下賜品を含む品々や書簡を寄贈していただきました。そこで、寺内正毅の号が桜圃であったことにちなみ、「桜圃名宝」展と題して、この新収資料の一部を公開する展覧会を開催します。本ミュージアムレターでは、なかでも特に注目される資料2点を、分かりやすい解説と写真でご紹介します。展覧会や資料について、一層興味を深めていただければと思います。

展覧会の実施と本号の作成にご協力くださいました皆様に心から御礼申し上げます。

(館長 和光 純)

### 新収 寺内正毅・寿一関係資料と「桜圃名宝」展

寺内正毅(1852-1919)は、号を桜圃といい明治から大正にかけて、陸軍大臣や初代朝鮮総督を務め、大正5年(1916)に第18代内閣総理大臣となりました。また、国の役職を歴任するなかで伯爵の爵位を授けられ、陸軍の最高位として元帥府にも列せられています。後に、息子の寿一(1879-1946)も元帥となりましたが、明治から昭和前期にかけて、皇族以外で父子二代が元帥となったのはこの寺内正毅・寿一父子だけでした。

激動の時代に国の要職を務めた寺内父子に関する資料は、国立国会図書館の憲政資料室や、正毅の出身地である山口に多く残されています。なかでも、山口県立大学が所蔵する資料群は、正毅が生前に構想し、寿一が完成させた私設図書館「桜圃寺内文庫」の旧蔵品を核とするもので、近年関連資料が新たに加わり整理と公開の作業が進んでいます。

そして、当館が今回新たに収蔵した資料群は、正毅・寿一が遺した寺内家旧蔵の品350点余りからなります。役職歴任にともない皇室から下賜された工芸品や、吉田松陰・高杉晋作・木戸孝允など正毅が収集した山口(旧長州藩)の幕末維新の志士たちの書、同時代の人々からの書簡等々。「桜圃名宝」展では、そのなかから選りすぐりの漆藝や墨蹟、書簡など30点ほどをご紹介します。いずれもご子孫により大切に保管されてきた寺内家の名宝です。近代史・美術工芸史研究ともに注目の資料を、ぜひご覧ください。

(学芸員 吉廣さやか)